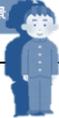
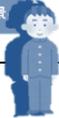


以下のステップで、必要に応じて「支援シート」を選んで活用することもできます。

<p>スタート</p> <p>1</p>	<p>○ 支援者が困っているのか？ それとも、子ども(本人)が困っているのか？に気づく。</p>	
<p>2</p>	<p>○ 支援者が気になる子どもの「行動の意味や背景」を捉えて支援策を考える。</p>	<p>行動の意味や背景</p> 
<p>3</p>	<p>○ 支援者が子どもの実態を「教育的ニーズ①②③」の視点でバランスよく整理する。</p>	
<p>4</p>	<p>○ 支援者が子どもの実態を「教育的ニーズ①②③」の視点、さらに必要な視点を加えて整理する。</p> <p>→ <b>支援者用:基本ツール「子ども理解シート」</b>へ支援者が記入して検討する。</p>	
<p>5</p>	<p>○ 支援者が合理的配慮の基礎となる環境整備について考える。</p>	
<p>6</p>	<p>○ 支援者の子どもへの問いかけ・言葉がけについて振り返る。</p>	
<p>7</p>	<p>○ 支援者が子ども理解の視点を「本人目線」で捉え直す。</p> <p>→ <b>支援者用:基本ツール「本人目線バージョン」じぶんをやる(自己理解)シート</b>へ支援者が記入して検討する。</p>	
<p>8</p>	<p>○ 必要な項目について、支援者が本人との対話を通して具体的に考える。</p> <p>→支援者用「本人目線バージョン」を活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分のつよみをするシート」</li> <li>・「自分にひつようなサポートをするシート」</li> <li>・「自分の中心課題確認シート」</li> <li>・「自分の行動の理由を考えるシート」</li> <li>・「ゆめにむかってがんばるシート」</li> </ul>	<p>→本人との対話を通して各シートへ「支援者」が記入</p>  <p>→本人との対話を通して各シートへ「本人」が記入</p>
<p>9</p> <p>ゴール</p>	<p>○ 支援者(保護者)の子ども理解、本人の自己理解が深まる。 「自分には、○○といった困難なことがあっても、○○(支援)を受け、○○(学習・練習)することで、○○(なりたい自分・目標)できる」という理解 この「○○すればできる・分かる」を支援者、保護者と共有し引き継ぐ。 <b>「自分はこうすればできる」という自信をもつことができる。</b></p> <p>○ 個別の教育支援計画、個別の指導計画の評価、引継ぎ・活用につながる。</p> <p>○ 個別の教育支援計画、個別の指導計画が本人に役立つツールになる。</p>	

